



川に学ぶ体験活動協議会

OJT アシストノート

会員証貼り付け位置

[コピー可]

会員番号

氏名

認定 ジュニアリーダー 年 月 日
リーダー

インストラクター 年 月 日

コーディネーター 年 月 日

住所 〒

電話番号

E-mail

生年月日 年 月 日

所属団体

所属団体連絡先

目次

P01	OJT 解説
P02	OJT 実施の手順
P03	OJT サポーターの姿勢
P04	RAC リーダー OJT 必須科目・プログラム例
P05	RAC リーダー OJT 自己目標・評価シート
P06	RAC インストラクター OJT 必須科目・プログラム例
P07	RAC インストラクター OJT 自己目標・評価シート
P08	RAC コーディネーター OJT 必須科目・プログラム例
P09	RAC コーディネーター OJT 自己目標・評価シート
P10	RAC コーディネーター OJT・事業運営記録
P11	RAC トレーナー登録更新活動履歴確認書
P12-13	主催団体へのお願い
P14	自然体験活動指導者養成講習履修票
P15	リーダー・OJT チェック表
P16	インストラクター・OJT チェック表
P17	コーディネーター・OJT チェック表
P18	参考文献



OJT とは？

OJT 解説 (On the Job Training)

指導者になったら OJT で、技術と質を上げよう。
RAC の OJT はあなたのスキルアップの為には必要です。

RAC の OJT とは

- ・ 具体的な体験活動を通じて川の指導者に必要な知識・技術・技能・姿勢などを主体的・計画的に継続的に修得していく研修手法です。
- ・ 各指導者種別に応じて、対象となる OJT が高度化・専門化する仕組みとなっています。
- ・ 実際の体験活動で、自主的に指導を学び、PDCA サイクルによって、目指すべき川の指導者像へと近づいていくことを狙いとします。
- ・ 登録団体の活動に参加して OJT を行うことを基本としますが、全国の構成団体間でも OJT 育成をサポートします。

RAC・OJT 各クラス毎の目標

- RAC リーダー ⇒ 体験して知る
- RAC インストラクター ⇒ 指導できる分野（部分）を持つ
- RAC コーディネーター ⇒ 1つの事業を計画から報告まで遂行

PDCA サイクル

Step1- 計画

①何を学びたいか目標を決め、計画を立てよう。

Step4- 改善

①評価を基に次のステップに進もう。

Step2- 実施

①OJT の相談
②OJT 実施
(RAC 他団体の OJT もあるよ。)

Step3- 評価

①活動を終わったら自己評価しよう。
トレーナーにチェックしてもらうことを忘れずに !!

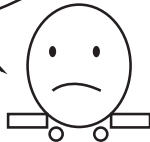
※RAC・OJT には OFF-JT も含まれています。

OJT サポーターの姿勢

偉人も語る

やってみせ、言って聞かせ
 させてみせ、褒めてやらねば
 人は動かじ。
 話し合い、耳を傾け、承認し
 任せてやらねば、人は育たず。
 やっている、姿を感謝で見守って
 信頼せねば、人は実らず。

山本五十六 (やまもと いそろく)



人には必ず長・短があるもの。
 その長ずるところを見つけるには
 動かしてみることに
 行動を観察することによって
 うかがい知る。

萩生徂徠 (おぎゅうそらい)



人間は、遊んでこそ物は
 おぼえるのです。
 教育の術は若い者の心に
 好奇心を呼びさまし
 それからその好奇心を充たしてやる
 術にほかなりません。

アナトール・フランス



これまでの指導法は

上から下への
一方通行

一方的

指導者

これからの指導法は

コミュニケーション能力が高い
 判断力がある
 カヌーが得意
 雑務が苦手
 おっちょこちょい

まず、相手 (RAC トレーニー) の特徴を理解し

目標意識の共有

聞く姿勢を持ち

相方向

フムフム

あの..

言う・話す・語る
 コミュニケーション

○J T サポーター

○J T トレーニー

困ったときに手を差しのべる

目標

○J T トレーニー

○J T サポーター

RACリーダーOJT必須科目・プログラム例

科目	身につけるスキル	OJT 最小時間数(h)
川に学ぶ体験活動の理念	RACの意義を理解し広く一般に伝えることができる。	-
	RAC指導者認定制度を知り、参加する方法を理解する。	
川という自然の理解	川という自然の体系的な仕組みや生態系について基礎的な概要を知る。	2.5 以上
川と人、社会、文化の関わり	川と人の暮らしの関わりについて基礎的な事柄が理解できる。	2 以上
	人の生き方、暮らし方と川との関連について知る。	
	川と関連して生まれた技能・芸能・伝統文化について初歩的な知識を得る。	
安全対策について	RACでの安全対策、安全管理について知る。	4.5 以上
	基本的な救急処置法を実習、経験する。	
	指導者の責任、その範囲について知る。	
川に学ぶ体験活動の基礎技術	川に学ぶ体験活動における基礎的な技能の必要性を知り、これらを修得する。	3 以上
	自然環境への配慮・他利用者への配慮・川でのマナーの必要性を知る。	
対象となる参加者を知る	参加者の状況を指導計画に活かす意味を理解する。	3 以上
	指導者として参加者に配慮すべき事柄を理解する。	
	川に学ぶ体験活動を提供する指導者としての心構えを認識する。	
川に学ぶ体験活動の指導法	RACの基本的な指導法とより効果的な指導法について知る。	3 以上
プログラムの作り方	RACにおけるプログラムの作り方を理解する。	4.5 以上
合計		120 ※1

※1 RAC-OJT での必要最低時間。

※OJTは、リーダーの登録団体で受講することが基本です。RAC加盟団体の、多彩なプログラムと下記のような講座もOFF-JTとして加算できますので、詳しくはRACホームページ (<http://ojt.rac.ac>) をご参照下さい。OJTプログラムへ参加する際には保険加入が必須です。

リーダーOJT:20日(120h以上)

RACのOJTは「楽しい学びの場」でなければなりません。
 リーダーのOJTは「体験して知ること」を主眼におきます。
 リーダーのOJTは、RACの付加講座を受講したり、RAC構成団体のプログラムへ参加することを通じて学ぶことも対象とします。
 RACの認定するものであれば、自然体験活動に関する講座もOJT対象プログラムとします。

《リーダーで想定するOJT(OFF-JT)プログラム例》 ※RAC指定の講座以外は認められません。

○RAC関連講座及び催し

RAC各種付加講座(Eボート指導者講習、RAC水辺のリスクマネジメント講座、RAC水辺のレスキュー講習、RAC水辺のファーストエイド講習) / 子ども水辺の安全講座 / RAC全国大会 / RACフォーラム / 全国一斉1万人川の流れ体験

○自然体験活動に関連する講座(RAC認定予定講座)

プロジェクトWETエデュケーター講座 / ウィルダネス・ファーストエイド講座 / プロジェクトWILDエデュケーター講座 / 日本レクリエーションリーダー / 日本山岳ガイド協会自然ガイド / 登山ガイド資格 / 水難学会プール指導員 / 救急救命講習(日赤、MFA、消防) / シェアリングネイチャー協会(指導者養成) / 日本釣振興会 公認釣インストラクター / 日本キャンプ協会リーダー / NACS-J(自然観察指導員) / レスキュー3・SFR / CONE全国フォーラム

RAC リーダー OJT 自己目標・評価シート

NO

記入日： 年 月 日

1.氏 名	
2.事業主催団体	
3.事業実施日（期間）	
4.リーダーOJTの必須 科目	
5.リーダーにおける 自己目標	
6.評価欄	
①目標達成状況	
②活動上の工夫点	
③今後に向けての改良点	

適切に実施したことを証明します。

担当トレーナー： _____

RACインストラクターOJT必須科目・プログラム例

科目	身につけるスキル	OJT 最長時間数(h)
RAC の理念と実践	RACインストラクターの概要と登録制度について伝えることができる	-
	RAC憲章の意義と「川に学ぶ」体験との関連性について伝えることができる ※「川に学ぶ」体験活動の理念 河川行政含	
	RAC リーダーの体験を自己評価し、RAC インストラクターの役割について伝える事ができる	
安全対策について	RAC での安全対策、安全管理について理解し、実践できる	4.5 以上
	救急法の基本的技術を理解し、実践できる	
	活動に必要な基本的な救助技術を理解し、実践できる ※法的責任、危険予見・回避含む	
川という自然の理解	川という自然の体系的な仕組みや生態系について基礎的な概要を知り、効果的に伝えることができる	2.5 以上
川と人、社会、文化の関わり	災害時を想定した、日常の活動について認識を深める	2 以上
	RAC 会員が担える災害時の役割とその限界について認識する	
対象者となる参加者を知る	「川に学ぶ」体験活動の参加者に応じた対応のあり方を理解し実践できる	3 以上
	さまざまな対象者に応じた指導ができるようになる ※OJT では団体の活動に参加して指導実習をする(指導案づくり・ふりかえり)	
	個人情報の守秘義務を理解し実践できる	
川に学ぶ体験活動の指導法	RAC の基本的な指導法に基づきより効果的な指導ができる	3 以上
	企画、準備、実施、事後評価の指導の流れを理解し総合的な指導力を身につける ※OJT では団体の活動に参加して企画・準備・実施・判断力の養成を行う	
	指導案の作りかた・学習効果の高いふりかえり方法を身につける	
RAC の基礎技術	RAC のプログラムを指導するために効果的な技術を習得し実践できる	3 以上
プログラムの作り方	RACにおけるプログラムの考え方を理解し、企画できる ※プログラム＝指導案づくり 4h(安全配慮によるプログラム4h)	4.5 以上
合計		60 ※1

※1・RAC-OJT での必要最低時間。

※OJT は、インストラクターの登録団体で受講することが基本です。RAC 加盟団体の、多彩なプログラムと下記のような講座も OFF-JT として加算できますので、詳しくは RAC ホームページ (<http://ojt.rac.ac>) をご参照下さい。OJT プログラムへ参加する際には保険加入が必須です。

インストラクターOJT:10日(60h以上)

インストラクターのOJTでは、補助指導やパート担当指導を実践していきます。
RACで認める研修プログラムもRAC付加資格講座の専任講師養成や、指導的立場となる講座・検定を対象としています。
また、OJTの全ての時間のどこかで、「RAC 5つの理念」と「インストラクター講座の全科目」を網羅することが必要です。
目標は、何か1つは人前で指導出来る分野を持つことです。

《インストラクターで想定するOJTプログラム例》 ※RAC指定の講座以外は認められません。

- RAC関連講座及び催し
- RACリーダー講座(補助講師、講師)
- プロジェクトWETの指導
- 自然体験活動に関連する講座(Rac認定予定講座) ※水辺に関する活動の指導経験
- 水辺活動に関する講座(OFF-JTプログラム)
- RAC各種専任講師養成講座(Eポート指導者講習、RAC水辺のリスクマネジメント講座、RAC水辺のレスキュー講習、RAC水辺のファーストエイド講習) / レスキュー3・SRT-1 / JSCA・指導者検定会、SRP / JRCA・シニア指導者検定 / プロジェクトWETファシリテーター講座

RAC インストラクター OJT 自己目標・評価シート

NO

記入日： 年 月 日

1.氏 名	
2.事業主催団体	
3.事業実施日（期間）	
4.インストラクター OJT必須科目	（例・「安全対策について」安全管理の実践。）
5.インストラクター となるための当OJ Tの自己目標	
6.評価欄	
①目標達成状況	
②活動上の工夫点	
③今後に向けての改良点	

適切に実施したことを証明します。

担当トレーナー： _____

RACコーディネーターOJT必須科目・プログラム例

科目	身につけるスキル	OJT 最長時間数(h)
RACとコーディネーターの役割	RACの理念と指導者全体像を理解し、各指導者の役割を説明することができる	-
	コーディネーターに求められる資質と役割を認識する ※地域社会との連携ほか	
	災害時における地域での活動協力	
事前レポート	OJT 他、今までの指導者実績を整理し、自己能力を認識する	-
	RAC全体の認識を深める	
参加者及びニーズ理解	多様な参加者や自分自身を理解する効果的な方法を理解する	3以上
	参加対象者の様々なニーズ分析方法について理解する	
安全管理について	安全管理の視点から事業全体をチェックし、危険を回避する体制をつくることができる	3以上
	関連法規を把握し、安全管理マニュアルを作成することができる	
事業の指導体制と展開	事業を効果的に運営するための指導体制を組むことができる	3以上
	事業内で効果的な指導の展開をすることができる	
事業企画・運営	RACの事業を企画することができる ※集客を考えた事業企画	4.5以上
	RACの事業を実施することができる	
評価	自然体験活動事業における具体的かつ効果的な評価方法を学び、実践できる	4.5以上
自然環境の特質的講座(不可資格)	地域と連携等	4.5以上
合計		360 ※1

※1・RAC-OJTでの必要最低時間。

※OJTは、コーディネーターの登録団体で受講することが基本です。RAC加盟団体の、多彩なプログラムと下記のような講座もOFF-JTとして加算できますので、詳しくはRACホームページ(<http://ojt.rac.ac>)をご参照下さい。OJTプログラムへ参加する際には保険加入が必須です。

コーディネーター5事業以上

コーディネーターのOJT対象プログラムは、5事業以上の実施が必須です。事業としては、川流れ体験・RAC水辺のレスキュー講習会・RAC子ども水辺安全講座・Eボート指導者講習会・RAC水辺のリスクマネジメント講座・RACリーダー養成講座など。これらの事業を、企画・実施・報告までを行います。

半日(3h)程度であれば10事業以上、1日(6h)程度であれば5事業以上実施し、担当トレーナーへ報告します。

RAC コーディネーター OJT 自己目標・評価シート

NO

記入日： 年 月 日

1.氏 名	
2.事業主催団体	
3.事業実施日（期間）	
4.コーディネーター OJT必須科目	（例・「プログラムの作り方」○○○できる。）
5.コーディネーター となるための当OJ Tの自己目標	
6.評価欄	
①目標達成状況	
②活動上の工夫点	
③今後に向けての改良点	

適切に実施したことを証明します。

担当トレーナー： _____

コーディネーター OJT・事業運営記録

(NO _____)

1.講座名					
2.開催日時					
3.開催場所					
4.河川名					
5.参加人数	子ども	名	大人	名、指導者	名
6.講座内容	(各アクティビティ毎に ①アクティビティ名称・②概要・③講師名を記載し、写真を添付。1日の活動を総括して、最後に考察を記載。)				
アクティビティ名：					
講師名：		(写真貼付枠)			
概 要：					
アクティビティ名：					
講師名：		(写真貼付枠)			
概 要：					
アクティビティ名：					
講師名：		(写真貼付枠)			
概 要：					

※この記録の他、収支簿を添付のこと。

R A C トレーナー登録更新 活動履歴確認書

ふりがな			
申込者名			
所属団体名		役職	
自宅住所※	〒		
自宅TEL・FAX※	TEL:	FAX:	
携帯電話番号※			
RACトレーナー及びリーダー講習会講師等 過去3年間の活動履歴			
年月日	行事名	担当した役割・内容	
通信欄			

※変更のある場合に記載ください。

川に学ぶ体験活動協議会の自然体験活動指導者OJT 主催団体様へ

今回、山・川・海など、様々な自然フィールドで活躍する指導者の人材育成(技術と質の向上)を目的としたOJTカリキュラムを作成致しました。実際のフィールドで即戦力になる、人材育成のためのOJTカリキュラムです。RAC指導者は、受講に必要時間のOJTを加えることで、自然体験活動指導者(全国体験活動指導者認定委員会)への移行登録も可能です。(但し、学校連携の付加講座の受講が必要です。)
各構成団体、トレーナーの方は下表を参考にOJTの指導をお願い致します。

(単位：時間)

RACリーダー (ジュニアリーダー※)				自然体験活動指導者 (自然体験活動リーダー)		
RAC科目	講義	実技	OJT	対応科目	概論 I	演習 I
川に学ぶ体験活動の理念	1		※	自然体験活動の企画・運営	1.5	4.5
プログラム作りの基礎知識	1					
川という自然の理解	1	2		自然体験活動の特質	6	4.5
川と人、社会、文化とのかかわり	1	2				
対象となる参加者のことを知る	1	1		参加者理解	1.5	3
川に学ぶ体験活動の基礎技術	1	2		自然体験活動の技術	3	3
安全対策について	1	4		自然体験活動の安全管理	4.5	4.5
川に学ぶ体験活動の指導法 (安全対策の実際 1h 含)	1	2		自然体験活動の指導	3	3
試験						
小計	8	13	120			
合計	21					
学校連携リーダー (付加講座)	3		(60)	青少年教育の意義と体験活動の役割	1.5	
学校連携リーダー (付加講座)				学校教育における体験活動 (学校制度と学習指導要領)	1.5	
	24		120	合計	22.5	22.5

※1 RACリーダーの「OJT (On The Job Training)」の実施方法や対象となる活動等は別紙参照のこと。

※2 RACのジュニアリーダー受講年齢は16歳以上だが、自然体験活動リーダーに登録するためには18歳以上で受講することが必要。

※ OJT=演習

(単位：時間)

RACインストラクター			自然体験活動上級指導者 (自然体験活動インストラクター)		
RAC科目	講義・実技	OJT	対応科目	概論 I	演習 I
川に学ぶ体験活動の理念	1	※	自然体験活動の特質	6	4.5
川という自然の理解	3				
川と人、社会、文化とのかかわり	3				
対象となる参加者のことを知る	3		参加者理解	3	3
川に学ぶ体験活動の基礎技術	3		自然体験活動の技術	3	3
安全対策について	4.5		自然体験活動の安全管理	4.5	4.5
川に学ぶ体験活動の指導法	3		自然体験活動の指導	3	3
プログラム作りの基礎知識	3		自然体験活動の企画・運営	3	4.5
試験					
合計	23.5	60	合計	22.5	22.5

※RACインストラクターの「OJT (On The Job Training)」の実施方法や対象となる活動等は別紙参照のこと。

(単位：時間)

RACコーディネーター			自然体験活動総括指導者 (自然体験活動コーディネーター)		
RAC科目	講義・実技	OJT	対応科目	概論 I	演習 I
RACとコーディネーターの役割	2	※	地域との連携	6	4.5
事前レポート	1				
参加者及びニーズ理解	3		多様な方法による参加者理解と対応	3	3
安全管理について	3		安全管理上の体制づくりと法規	3	3
事業の指導体制と展開について	3		自然体験活動事業の指導方法	3	3
事業企画・運営	5		自然体験活動事業の企画・運営	4.5	4.5
評価	3		自然体験活動事業の評価	3	4.5
試験					
合計	20	360			
自然環境の特質的講座 (付加資格)	(3.5)		(地域との連携)	(3.5)	
	23.5	360	合計	22.5	22.5

※RACコーディネーターの「OJT (On The Job Training)」の実施方法や対象となる活動等は別紙参照のこと。

自然体験活動指導者養成講習(演習) 履修表(受講票)

氏名		種類	自然体験活動リーダー講習
住所		生年月日	

No.	科目	時間	実施団体名	講師	受講年月日	団体印
例	青少年教育の現状と対応	1.5	コーン自然学校	COONE 太郎	2016/10/12	
自然体験活動の特質(4.5)						
1	食(野外炊事等)の活動	1.5				
		1.5				
	地理地形・地質・動植物の観察	1.5				
参加者理解(3.0)						
2	参加者相互の関係づくり	1.5				
	指導者と参加者の関係づくり	1.5				
自然体験活動の技術(3.0)						
3	基本的な自然体験活動技術の体験	1.5				
	自然に配慮した自然体験活動体験	1.5				
自然体験活動の安全管理(4.5)						
4	活動場所のリスクマネジメント	1.5				
	初期処置の方法	1.5				
		1.5				
自然体験活動の指導(3.0)						
5	活動プログラムの指導の実際	1.5				
	指導方法の実際	1.5				
自然体験活動の企画・運営(4.5)						
6	活動プログラムの企画の実際	1.5				
	活動プログラムの評価	1.5				
		1.5				

リーダー（ジュニアリーダー）・OJT チェック表

指導者名 _____

科目	身につけるスキル	OJT最小時間数(h)	実施日(西暦)	時間(例 13:00~17:00)	合計時間数(h)	OJT内容
川に学ぶ体験活動の理念	RACの意義を理解し広く一般に伝えることができる。	-	/	/	/	
	RAC指導者認定制度を知り、参加する方法を理解する。		/	/	/	
川という自然の理解	川という自然の体系的な仕組みや生態系について基礎的な概要を知る。	2.5				
川と人、社会、文化の関わり	川と人の暮らしの関わりについて基礎的な事柄が理解できる。	2				
	人の生き方、暮らし方と川との関連について知る。					
	川と関連して生まれた技能・芸能・伝統文化について初歩的な知識を得る。					
安全対策について	RACでの安全対策、安全管理について知る。	4.5				
	基本的な救急処置法を実習、経験する。					
	指導者の責任、その範囲について知る。					
川に学ぶ体験活動の基礎技術	川に学ぶ体験活動における基礎的な技能の必要性を知り、これらを修得する。	3				
	自然環境への配慮・他利用者への配慮・川でのマナーの必要性を知る。					
対象となる参加者を知る	参加者の状況を指導計画に活かす意味を理解する。	3				
	指導者として参加者に配慮すべき事柄を理解する。					
	川に学ぶ体験活動を提供する指導者としての心構えを認識する。					
川に学ぶ体験活動の指導法	RACの基本的な指導法とより効果的な指導法について知る。	3				
プログラムの作り方	RACにおけるプログラムの作り方を理解する。	4.5				
合計		120				

上記の通り、OJTを実施したことを証明します。

平成 年 月 日

RAC トレーナー名： _____ 印

インストラクター・OJT チェック表

指導者名

科目	身につけるスキル	OJT最小时間数(h)	実施日(西暦)	時間(例 13:00~17:00)	合計時間数(h)	OJT内容
RACの理念と実践	RACインストラクターの概要と登録制度について伝えることができる					
	RAC憲章の意義と「川に学ぶ」体験との関連性について伝えることができる ※「川に学ぶ」体験活動の理念 河川行政舎					
	RACリーダーの体験を自己評価し、RACインストラクターの役割について伝える事ができる					
安全対策について	RACでの安全対策、安全管理について理解し、実践できる	4.5				
	救急法の基本的技術を理解し、実践できる					
	活動に必要な基本的な救助技術を理解し、実践できる ※法的責任、危険予見・回避含む					
川という自然の理解	川という自然の体系的な仕組みや生態系について基礎的な概要を知り、効果的に伝えることができる	2.5				
川と人、社会、文化の関わり	災害時を想定した、日常の活動について認識を深める	2				
	RAC会員が担える災害時の役割とその限界について認識する					
対象者となる参加者を知る	「川に学ぶ」体験活動の参加者に応じた対応のあり方を理解し実践できる	3				
	さまざまな対象者に応じた指導ができるようになる ※OJTでは団体の活動に参加して指導実習をする(指導案づくり・ふりかえり)					
	個人情報の守秘義務を理解し実践できる					
川に学ぶ体験活動の指導法	RACの基本的な指導法に基づきより効果的な指導ができる	3				
	企画、準備、実施、事後評価の指導の流れを理解し総合的な指導力を身につける ※OJTでは団体の活動に参加して企画・準備・実施・判断力の養成を行う					
	指導案の作りかた・学習効果の高いふりかえり方法を身につける					
RACの基礎技術	RACのプログラムを指導するために効果的な技術を習得し実践できる	3				
プログラムの作り方	RACにおけるプログラムの考え方を理解し、企画できる ※プログラム＝指導案づくり 4h(安全配慮によるプログラム4h)	4.5				
合計		60				

上記の通り、OJTを実施したことを証明します。

平成 年 月 日

RAC トレーナー名：_____ 印

コーディネーター・OJT チェック表

指導者名 _____

科目	身につけるスキル	OJT最小時間数(h)	実施日(西暦)	時間(例 13:00~17:00)	合計時間数(h)	OJT内容
RACとコーディネーターの役割	RACの理念と指導者全体像を理解し、各指導者の役割を説明することができる					
	コーディネーターに求められる資質と役割を認識する ※地域社会との連携ほか					
	災害時における地域での活動協力					
事前レポート	OJT他、今までの指導者実績を整理し、自己能力を認識する					
	RAC全体の認識を深める					
参加者及びニーズ理解	多様な参加者や自分自身を理解する効果的な方法を理解する	3				
	参加対象者の様々なニーズ分析方法について理解する					
安全管理について	安全管理の視点から事業全体をチェックし、危険を回避する体制をつくることができる	3				
	関連法規を把握し、安全管理マニュアルを作成することができる					
事業の指導体制と展開	事業を効果的に運営するための指導体制を組むことができる	3				
	事業内で効果的な指導の展開をすることができる					
事業企画・運営	RACの事業を企画することができる ※集客を考えた事業企画	4.5				
	RACの事業を実施することができる					
評価	自然体験活動事業における具体的かつ効果的な評価方法を学び、実践できる	4.5				
自然環境の特質的講座(不可資格)	地域と連携等	4.5				
合計		360				

上記の通り、OJTを実施したことを証明します。

平成 年 月 日

RAC トレーナー名: _____ 印

参考文献

- 「OJT の実際」〈第 2 版〉 寺澤弘忠 日経文庫 2005
- 「管理者のための OJT の手引」〈第 2 版〉 寺澤弘忠 日経文庫 2004
- 「OJT の基本」 寺澤弘忠・寺澤典子 PHP ビジネス新書 2009
- 「これだけ！ OJT」 中尾ゆうすけ すばる舎リンクージ 2010
- 「病院のための OJT」 寺澤弘忠・寺澤典子 PHP 研究所 2008
- 「学校における OJT の効果的な進め方」 浅野良一 教育開発研究所 2009
- 「教える技術」 石田淳 かんき出版 2011
- 「OJT 能力開発マニュアル」 古屋由美子 ぱる出版 2004
- 「「リスク感性」を磨く OJT」 釜英介 日本看護協会出版会 2004
- 「はじめての OJT リーダーの心得」 中井嘉樹 経営書院 2011
- 「OJT ハンドブック」 宮崎民雄 ビジネス教育出版社 1997
- 「新版 OJT で部下が面白いほど育つ本」 小山俊 中経出版 2009
- 「福祉職場の OJT とリーダーシップ」 改訂版 宮崎民雄 エイデル研究所 2008
- 「OJT と職場経営」 大貫章 産能大学出版部刊 2002
- 「ナースの OJT」 葛田一雄 ぱる出版 2010
- 「実例から学ぶ 人材育成 OJT 実践マニュアル」 寺澤弘忠 ぱる出版 2001
- 「OJT 推進マニュアル集」 日経連出版部編 1997
- 「子どもが自立できる教育」 岡田尊司 小学館 2013
- 「子どもの問題 いかにか解決するか」 魚住絹代著／岡田尊司監修 PHP 新書 2013





RAC 川に学ぶ体験活動協議会

〒110-0001

東京都台東区谷中3-6-16 大輪ビル3階A室

NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会事務局

TEL 03-5832-9841

FAX 03-6893-2642

URL <http://www.rac.gr.jp/>

E-Mail rac@rac.gr.jp

～この冊子は河川整備基金の助成金によって作成されました～